



【木造十一面観音菩薩立像（町指定文化財）】

よる花祭りや奉納相撲があり、地元はもとより県内各地から多くの参拝客が訪れます。

佐谷建正寺がある観音谷の地名は、この仏像から由来すると考えられており、伝教大師に関する資料が数多く残っています。十一面観音が安置される観音堂付近には、大日堂、県指定文化財の正中二年銘梵字板碑(P.008 参照)、少し離れたところに伝教大師堂と独鈷(とっこ)水(影見の井)があります。地名として百堂、仁王堂という地名が残っています。

### ■ 2 軀の十一面観音像

観音堂には、もう1軀、クスの一木造りによる十一面観音像が安置されています。昭和20年代に県指定文化財に認定された仏像が修復される以前は、こちらの仏像が御本尊として祀られていました。県指定文化財の仏像は近畿地方の影響を強く受けた仏像ですが、こちらの仏像は北部九州の在地系の仏像です。

### ■ 江戸時代の修復

仏像の台座裏には、元禄2年(1689)に、仏師巖瀬又四郎が修理した旨の墨書が記されてい



ます。仏像は、この時に表面の漆箔と朱色の彩色を施したものと思われます。